

2019

JAN. 1 vol.45

# 東京成徳広報



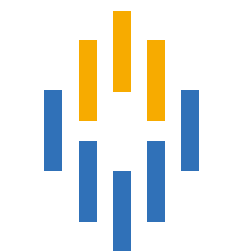
東京成徳大学中学校と同深谷中学校の合同合唱祭



学校法人 東京成徳学園

C O N T E N T S

P 3	<b>巻頭言「グローバル化と日本文化」</b> 東京成徳学園 学園長 木内 秀俊
P 4	<b>大学改革</b> 新学部設置 グローバル化の推進 キャンパス整備
P 6	<b>学園人事</b>
P 7	<b>ひと「活躍する卒業生」</b> 千葉県 公立認定子ども園 小原 沙耶子さん
P 8	<b>進路</b>
P 9	<b>TOPICS</b> 大学院 応用心理学部（臨床心理学科）
P 10	応用心理学部（福祉心理学科 健康・スポーツ心理学科）
P 11	子ども学部 経営学部
P 12	人文学部（日本伝統文化学科 国際言語文化学科）
P 13	短期大学
P 14	中高一貫部 高等部
P 15	深谷高等学校 深谷中学高校一貫コース
P 16	幼稚園 手作り絵本コンクール
P 17	<b>秋を彩る各校のイベント</b>
P 19	<b>卒業生 クラブ活動</b>
P 20	<b>入試予定・お問い合わせ先</b>



TOKYO SEITOKU

学園シンボルマーク  
イエローは「活力」と「勇気」を表し、  
三本の柱は学生・生徒・園児、教職員、  
同窓生を象徴しています。  
ブルーは「理想」と「若さ」を表し、五  
本の柱は五つの教育目標を象徴していま  
す。  
そして、八本の柱が一体となり、東京成  
徳学園とその学園に集う人々のヒューマ  
ニティを作り上げる姿を表現しています。

表紙 学園の東京と深谷の両中学校合同合唱祭

28回目を迎えた合唱祭（両校合同で6回目）が12月15日北とびあ さくらホールに於いて開催されました。東京の1～3年10クラスと深谷中学校が課題曲と自由曲を合唱して競いあい、また、中高一貫部5年生音楽選択者と北区民混声合唱団も特別参加しました。

表紙は、両校の3年生全員が「虹」を熱唱しているカットです。



## 「グローバル化と日本文化」

東京成徳学園 学園長 木内 秀俊

### 国際的なイベントの開催

今年のアジア初のラグビーワールドカップがわが国で開催される。また来年は2回目の東京オリンピックが予定されている。そして2025年には大阪で万国博覧会（万博）が開催されることが決定した。国際的なスポーツイベントが連続して開催され、引き続き万博が行われることは我が国の人々と世界の様々な国々・地域の人々との交流がより盛んになる追い風と考えられる。我が国と国民が世界の人々との交流を深めて行く意味でのグローバル化の雰囲気はこうしたイベントの開催で盛り上がりつつ行くと思われる。

### 時代の移り変わり

ところで日本社会の最大の世代層と言われる団塊の世代は前回のオリンピックや万博を青少年の時期に経験している。また団塊の世代のみならずその前後の多くの人々にとって、これから東京オリンピックが開かれ、その何年後か大阪万国博が開かれることにある既視感を持つ人も多いことと思う。

しかしながらオリンピック・万博と名称は同じでも、その内容とそれを取り巻く風景（環境）は同じではない。前回のオリンピック・万博の開催時には我が国は高度成長の真ただ中にあつた。団塊の世代を生んだ戦後のベビーブームもあつて人口構成は若年層の多い若い国家であつた。当時三種の神器と言われた「白黒テレビ」「洗濯機」「冷蔵庫」の家電や次に言われた「カラーテレビ」「クーラー」「自動車」などの耐久消費財の普及は経済成長に役立つとともに、日本人の生活を大きく変えていくことになつた。当時の変化は比喩的に言えば社会もローテクからハイテクへ変化していく過程であつたと言える。まだまだ隙間の多い社会であり夢を実現する可能性も大きなものに見えていたと思う。

しかし今見える風景（環境）は前回時とはかなり異なっている。少子高齢化の影響もあつて社会が高齢化したのみならず、人口の減少は社会の様々な分野で問題を生じている。イベントの実施には人手不足なども含め多くの課題が待ち受けていると考えられる。

オリンピックは前回に比較して参加国地域も増加し、競技数も格段に増加して大規模となつている。そして今回のオリンピックは前回東京オリンピックと比較して、オリンピックの分野が充実してきたことにも示されるように人間の多様性を大事にする場ともなるだろう。また万博は欧米に追いつけ追い越せとした前回の雰囲気から経済成長著しいアジアの変化もあり、世界の多様性とIT技術の発達に伴う未来の生活の姿を提案するものになると期待される。

### 国内の行事

他方今年は今上天皇の退位と新天皇の即位が予定されている。これに伴い元号が変わることとなる。もともと元号制定は中国の王朝を中心とする東アジア世界の中で独立した国であることを表す事柄でもあつた。しかし今では大本の中国も元号を持たず我が国独自の制度となつている。現行の元号制度は明治の初めそれまで様々な理由で改元が行われていたものを、一世二元として天皇一代ごとに元号を制定することにしたものである。こうして元号が結果として現実の人間（天皇）の生涯と結びつくことにより、国民も元号と自分の人生との繋がりを意識するようになっていったと思われる。世代を表す時に昭和生まれの人とか平成生まれの人とい

う表現は良く聞く表現である。しかしコンピュータの社会への普及と浸透によつて長期間の連続性を持つ西暦の使用が便利となつている。西暦はもともとキリスト誕生伝説を起源にしたものであり、日本の文化伝統とは無関係のものである。が今では日常生活の中に定着している。こうしたグローバル化の時代に日本の独自の文化・習慣とどのように折り合いをつけていくかはこれからの課題である。

### グローバル化と日本文化

社会のグローバル化はこれから我が国独自の文化と摩擦を起こすことも多いと思われる。日本人は昔より外来文化を独自に上手に消化して取り入れてきたと言われている。このようなグローバル化という変化の時代に何を残し、何をとり入れていくのかという取捨選択を日本人は多分賢明に行うと思う。加えて日本の良き点を世界に広め活かしていくことも大事になる。しかしその為には何が我々の本質的なものなのかを深く探求し、かつ本質的なものを保持し続ける感性や意思と行動力が必要となる。

本学園の教育がこうした時代背景も踏まえて、生徒・学生の伸び伸びとした自主性を育てる場であるとともに、他者と共生するための豊かな感性と強く生きる力を育てる場であつて欲しいと願う次第です。

## 大学改革（新学部設置）

### 「国際学部」開設に向けて

国際学部開設準備委員長 岡本和彦

いよいよ本年4月、「国際学部」は新入生を迎え、東京成徳大学の歴史に新たな一歩をスタートさせます。

ここまで、開設に向けて着々と準備が進められて参りました。本欄では、オープンキャンパスをはじめとした広報活動及び国際学部の目玉である「早期・長期の全員必修留学制度」の準備状況について報告させていただきます。

6月の第1回オープンキャンパスから多くの受験生・保護者の方にご参加いただき、前年度の人文学部時の二倍以上も集まり、その関心の高さを目の当たりにしました。その後の回も前年度を上回る参加者が集まったのですが、同時に高校訪問の実施、指定校の通知といった広報活動が進むとともに若干その様子も変わっていったようです。国際学部が人文学部と大きく異なるのは、留学を必修とする点以外にも、きわめて高い語学力水準の設定と国際学分野の学問に基づくグローバル人材の育成を掲げる点にあるのですが、そのためにも基礎学力と意欲の高い学生の確保を最重点に置いた入

試・広報を進めています。そのことは従来よりも圧倒的に数を絞った指定校入試制度に見ることが出来ます。そうした情報が徐々に伝わることに、オープンキャンパス来場者も「層高いレベルの意欲ある高校生の皆さんに来ていただいたように思います。」

オープンキャンパスでは、さまざまな体験授業を設定しました。中でもベルリッツによるデモ・レッスンが二度実施されましたが、いずれも高い関心を呼び多くの参加者がありました。また国際学部専任教員に就任予定のコンスタンティン先生による異文化コミュニケーションの授業は保護者も交えてたいへんアットホームな雰囲気の中でとても盛り上がった授業となりました。もちろん、イニ教授を中心に行われた韓国語と韓国文化の体験授業も変わらぬ人気ぶりで、国際学部入学後に韓国語をメジャー言語として履修したい学生が引き続き殺到する様相となっています。

国際学部では1年次後期から2年次前期にかけて全員が必修留学を行います。アメリカにつきましては、西海岸の三か所…シアトル、ポートランド、サンタローザのELS（語学学校）とコミュニティ・カレッジで学びます。9月

初旬に、芳賀学部長（就任予定）と私とで、この三か所を視察して参りました。ELSでは、実際の授業に参加させていただき、15人以下の少人数制のもときわめて実践的なメソッドの英会話クラスを体験でき、経験豊富なスタッフが非常にフレンドリーな環境で学生たちを迎え、指導してくれることを実感できました。



ポートランドのマウントフッド・カレッジにて学長・スタッフと会談



シアトルのELSにて所長・スタッフと会談

また、コミュニティ・カレッジは、いずれも数万人規模の学生数を誇り、広大なキャンパスに文系・理系の様々な学部を持つ素晴らしい環境のカレッジで、アメリカの高等教育を真に支える存在であることもしつかりと見て参りました。

どのカレッジでも歓待を受けました。中でもシアトルのグリーンリバー・カレッジは本学部の学生を心待ちにしている様子でホスピタリティあふれる対応をしていただきました。10月に同カレッジのスコビー国際交流課長が来日された折にはさつそく本学を訪問され、ちよūd学園祭の時でしたので茶道体験や平安装束体験もされるなど満喫され、両校の交流と絆をさらに深めることができました。

いよいよこれから学生を迎え、国際学部の教育の真価が問われることとなります。まずは新入生を十分に満足させながら留学に送り出し、次年度以降の学生募集と教育体制の充実に邁進して参りたいと思っております。



シアトルのグリーンリバー・カレッジ担当課長が本学を訪問

## 大学改革（グローバル化の推進）

### 国際学校心理学会東京大会のご報告

第40回国際学校心理学会東京大会実行委員長

心理学研究科長 石隈利紀

日本初の国際学校心理学会 (International School Psychology Association: ISPA) の大会が「生涯にわたる幸福をめざし、子どものレジリエンスを高めよう」をテーマに7月25日（水）から28日（土）まで、東京成徳大学で開催されました。

今日の子どもをとりまく子どもへのレジリエンス、いじめ対策、インクルーシブ教育、自然災害などの危機からの回復、虐待への対応、学校・家庭・地域の連携などについて、基調講演、シンポジウム、論文発表への参加により、最前線の研究・実践成果を共有することができました。参加者の今後の実践や研究における展開と発展が期待されます。3つの基調講演と講師を紹介します。



世界44カ国から学校心理学の実践家・研究者が来日し、国内参加者と合わせて1237名の参加者が、英語の基調講演と講師を紹介します。

語プログラムと日本語プログラムを通じて、共に学びあうすばらしい機会を持つことができました。

ISPA会長のナスターシー先生からは、「私が参加した中でベストの大会の一つ」と評していただき、

7月27日(金)



演題：グローバル時代における子どものレジリエンス

**Bonnie K. Nastasi, Ph.D.**  
Professor at Tulane University, USA

7月26日(木)



演題：日本における学校心理学：教師、スクールカウンセラー、保護者のチームによる心理教育的援助サービス

**Toshinori Ishikuma, Ph.D.**  
Professor at Tokyo Seitoku University, Japan

7月28日(土)



演題：レジリエンスを高める：トラウマを経験している子どもの援助

**William Pfohl, Psy.D.**  
Professor Emeritus at Western Kentucky University, USA

大会の成功は、木内秀樹理事長、新井邦二郎学長はじめ、東京成徳大学の教職員のみならず、東京成徳大学の重点目標の一つである「大学の



発展につながる「グローバル化」の一環として、本大会を大学行事と位置づけていただき、職員の方々にもたくさん助けていただきました。また大学院心理学研究科・臨床心理学科を含めて全学の教員の方々のお力をお借りしました。本大会を機会に、東京成徳大学のウェブページには本学を紹介する英語のページもできて、嬉しく思います。そして100名を超える高校生、大学生・大学院生、修了生のボランティアが案内、運営や通訳などで協力して、東京成徳学園のグローバルマインド、おもてなしの心を世界に発信しました。

## 大学改革（キャンパス整備）

東京キャンパス十条では、本年4月グローバルセンター（6号館）の完成に続き、図書館と食堂の改修を行いました。

### 図書館（2号館）の改修

新たな大学教育の取り組みとして、ラーニング・commons以下、「LC」という。の設置などを行うために実施したのですが、併せて採光に配慮した開放的な明るいスペースにリニューアルしました。

### ラーニング・commonsとは

学生が主体的に学べる場として、LCを図書館（2号館）1階に設けました。ここには、次のような施設設備や機



器に加え、スタッフのサポートが用意されています。

- 学生同士の議論がしやすい机、椅子、ホワイトボード
- ネットワーク環境
- 貸与パソコン
- 活発に議論ができるアクティブラーニングルーム

学生の皆さんには、ICTの活用・仲間とのディスカッション・スタッフのサポートなどによって、新たな気づきや学びが深まることとなり、同時にコミュニケーションやプレゼンテーションの能力も向上することが期待されます。



### 今なせラーニング・commons

将来さらに加速するとみられる、技術革新、グローバル化の進展及び社会構造の変化などを背景に、大学教育については、「知識伝達型」から「主体性育成型」への改革が迫られています。本学では、こうした新しい学びを実践していくために、LCを設置しました。

### どのように使う

LCは、本学の学生・教職員の誰もが自由に利用できますので、グループ学習、ゼミ活動、論文やレポート作成の際

に利用すると有効です。

### 食堂改修

#### 食堂からカフェテリアへ

学生の皆さんに、早く・安く・おいしい食事が提供でき、また居心地のよいスペースとなるよう、レイアウト変更や設備機器の一新を行いました。これにより、メニューの種類と味の改善が図られ、改修後の提供数は、昨年比5割増となっています。今後さらに学生の皆さんの要望に応えられよう、食堂会社と打ち合わせしていきたいと考えています。

## 学園人事

（平成30年7月～12月）

### 高野清純名誉教授が瑞宝中綬章受賞

高野清純本学名誉教授・元本学大学院研究科長（筑波大学名誉教授）は、平成30年秋の叙勲において、教育研究功勞により瑞宝中綬章を受賞されました。

### 中学・高等学校長が文科大臣表彰

木内秀樹中学・高等学校校長（学園理事長）は、平成30年11月6日、私立中学校高等学校教育振興功勞者として文部科学大臣より表彰されました。

異動		退職		採用	
職員	所属	職員	所属	職員	所属
大相 藤 蘇 森 英 聡	学 校	大 葛 西 優	中 学・高 校	大 古 田 田 千 恵 美	中 学・高 校
八千代総務課係長（八千代学生支援課係長）	配 属・役 職	八千代総務課員	教 諭	田 田 千 恵 美	専 任 講 師
総務課係長（八千代総務課係長）	配 属・役 職	J E T ・ A L T	教 諭	田 田 千 恵 美	教 務 課 員
		J E T ・ A L T	教 諭	田 田 千 恵 美	技 術 職 員
			配 属・役 職		

# ひと

## 『活躍する卒業生』

東京成徳短期大学幼児教育科

(平成28年3月卒業)

千葉県 公立認定子ども園

保育教諭

小原 沙耶子さん

**Q・今のお仕事を選ばれた動機、きっかけは**

私は幼少期、3年間幼稚園に通いました。私はいつもぎゅーと抱きしめてくれる先生がとても大好きでした。「大人になったら幼稚園の先生になる。」と子どもの頃から決めていました。親が心配して村上龍の本「13歳のハローワーク」を買ってくれて「他の仕事もみてみたら。」と言ってくれたのですが、自分の気持ちは変わりませんでした。高校は幅広く学んだ方がよいと考えて普通高校にいききました。



**Q・本学との縁は 在学中印象に残っていることは**

大学、短大と色々調べたのですが、2年早く社会にでてきちんと実務を学びたかったのです。私は一人ひとりを観察してその子どもの状況に寄り添いたいという気持ちがあり、東京成徳では心理学も学べるというので母親と2人で夏休みにオープンキャンパスにいきました。全体にとっても良い雰囲気だったうえ、対応してくださった先生がとても丁寧でした。懇切に面接の心得やAO入試の小論文の書き方迄指導してくださいました。このように一人一人面倒をみてくださる学校なら丁寧な保育を学べると感じ、帰宅してすぐ私は東京成徳に決めたと母親に告げました。

夏の終わりにAO入試があり、小論文では自分の考えを思い切りぶつけました。首尾よく入学し、授業もためになったし、自分と同じものを目指している友人たちとの語り合いもすごく楽しく、とても居心地がよい感じで片道2時間の通学も全然苦にはなりませんでした。実習ではすぐに使えるものが参考になり、パネルシアター、エプロンシアターなどは、今でも使っています。ボランティアサークルに所属し学校の近くの施設などを訪れ実績を重ねました。毎週土曜日には、自宅近くの保育所にボランティアとして、現場で教えてもらえる貴重な体験をさせていただきました。

**Q・現在のお仕事のやり甲斐は**

本園の規模は0歳から5歳児までを8クラスに分け全部で160人をお預かりしています。クラス担当の保育教諭だけでも17名、スタッフ総員で40人いますが私が最年少です。4歳児の担任をさせていただいています。私は子ども達とのコミュニケーションを個々にとるようにし、子ども達が今困っていること々に気づけるよう心掛けています。一番のやりがいは、子どもの成長を助け、長所を引き出せるように1年間保育し、それが実った子ども達の姿を見られることです。

そうはいつても私には至らない点はまだ沢山あります。毎年1つ新しい資格を取得するように努めています。ベビーマッサーやチャイルドコーチングアドバイザーなどを受講しました。現在は「行動心理学」を受講中です。来年は「リトミック」か「発達支援インストラクター」を考慮中です。

また、日常業務でも、園全体の問題や子どもたちの動向について話し

合い、1年間の目標としての教育課程があり、それを月別・1週単位で細かく計画しており、上司から進行状況についての助言もいただきながら、保育の反省や自分自身の反省を記録しています。

今年度、幼稚園からこども園に異動になり、2クラスを4人の担任がみることになりました。初めての複数担任制で、何処まで自分がやってよいのか、保育教諭各自の意見調整など、チームで保育を行う難しさも勉強しています。教育的な発達のねらいについてはさまざま意見があり一元化は大変です。

**Q・後輩へのメッセージ**

幼児教育科の学生は、保育者を目指して入学された方がほとんどだと思います。社会人になると制約が多いので、社会人になる前にやりたいことを沢山やっておいて欲しい。そして、今いる仲間と楽しい時間を過ごし、笑顔で卒業していただくことが、それが良い保育者になるための大切な経験にもなります。どんな時にも楽しめる気持ち、どうぞ笑顔を忘れず！

# 進路

大学・短期大学の就職

## 就職活動ルール廃止から予想される 大学教育の変化とキャリア教育の役割

大学・短期大学就職支援センター長

特任教授 猪又 優

### 就職活動ルールの廃止発言

経団連の中西宏明会長が9月3日の記者会見で、就職説明会を3月、選考面接解禁を6月、内定は10月としている現在の就活ルールは、2020年春入社までの適用とし、それ以降は廃止する意向を表明。その後政府のとりまとめによって、2021年春卒業生に関しては現行ルール、2022年春卒業生（現在の1年生）以降については、来年度以降に改めて決定することになりました。

### 従来の日本型採用制度の限界

高度成長期以降、多くの日本型経営の企業では、大学等の新卒はスケジュールを統一して定期的一括して職種を限定せずに採用することが主流となっています。しかし、「計画通りに人材が確保できない事」、「外資系企業など経団連のメンバーでない企業がこの統一スケジュールに従うことなく採用活動を行っ

ている事」等があり、このルールは実質形骸化しています。

### 就職活動ルール全廃による影響

もし現状を変えることなく就職活動のルールを全廃した場合、「採用活動の早期化と採用対象学生の低学年化」が予想されます。そして企業は常時面接と内定者の繋ぎ止め対策の実施による採用担当者の業務増大、大学は「就職支援担当者が通年で個別対応するため業務増大」、そして何よりも学生は「低学年から通年で就職活動を意識せざるを得ず、自分である学問に全力を注げない」と悪い影響ばかりが伝わっています。

### 企業としての改善策と学生の変化

それでは、どのように改善をすれば、本来のルール全廃のメリットを残しながら問題を解決することが出来るのでしょうか。その基本は「学生、企業、大学の良き緊張関係の構築」だと考えています。企業は「大学で何を学び何の専門性や能力を持つ人材を採用するのか」、「採用時には大学の何の授業成績を評価するのか」を明示すべきであると考えます。

二点目は「どのような仕事に対する人材を採用する」という、職種を提示した明確な仕事内容の説明が必

要だと考えます。これにより学生は、自身のより良い人生を築くために必要となる授業を真剣に受け学問を究めるようになると思います。

### 大学教育の変化

一方大学での教育は、学生や保護者のニーズにどう応えられるかという課題があり目標ともなりません。また、大学は教育の質の保証を問われ、もし学生の就職後必要な条件を満たさないことが分かれば、企業はその大学を信用しなくなり、翌年以降は採用を敬遠します。一方、大学での学びは、そのすべてが就職活動のためにあるわけではありません。「教養」は個人が正しく生きるため、豊かに生きるために「専門性」とともに必要なものです。歴史、哲学、美術など幅広く知性と教養を身に着ける、いわゆるリベラルアーツです。昨今大企業での不祥事が続きますが「分からなければやっても良い、法律を犯さなければやっても良い」との考えに社会が疑問を呈しています。この点東京成徳大学が掲げる「成徳II徳をなす」こそ今の時代に極めて重要です。

### キャリア教育の役割

これらの教育を推進していく基

礎として、キャリア教育が大きな機能を持つと考えています。初年次より四年間を通して「自らの人生は自分で作り上げていくもの」との基本認識を醸成し、有意義な学生生活の大切さ、就職活動はその結果であるが、卒業後の人生に大きく影響することを知ってもらいます。そして風説や就活サイトの情報に惑わされず確固たる自身のキャリアデザインを持つような教育を行い、インターシップ等での社会体験を促し、学問やそれ以外の活動に自主的に取り組んでもらうためのドライバリーまたはトリガーとなる必要があると考えています。

尚、2018年12月22日現在の就職決定率（就職希望者に対する割合）は、次の通り順調に推移しています。

大学	92%	(77%)
子ども学部	88%	(86%)
経営学部	83%	(77%)
応用心理学部	72%	(58%)
人文学部	84%	(87%)
短期大学		

※（ ）内は前年同時期の数字



大学院

東京成徳学園における学生ボランティアの取り組み

准教授 菊池 春樹

先日、本学で開催された国際学会「国際学校心理学会 (ISPA2018)」では、149名の東京成徳学園の関係者(教員・大学院生・学部生・高校生)のボランティアが運営に当たりました。海外の参加者の感想には、「学生さんや先生がたのスマイル、勤勉な働きに、感嘆!」「学生は、単なるボランティアではなく、東京成徳大学と日本の親善大使」など好意的なものが多くありました。

ここでは、ボランティア活動の基盤となっている、本学の教育実践のあり方の一部を紹介します。

「何をしたら良いですか?」は愚問。「何をしたら良いか」は自分で作るんだよ。」

こちらは、大会中に学生同士が話していた言葉です。実際、学会実行委員本部に「何をしたら良いか」を尋ねてくるのは、学外の社会人が多く、学生ボランティアからの同様の質問は、ほとんどありませんでした。また、こんなエピソードもありました。悪天候や高齢などのために駅まで歩くのが難しいという海外の参

加者がタクシーを手配するのに戸惑っているのを見つけた学生ボランティアが、「机と本部の携帯を貸してください。私、タクシーコーナー作ります。」と言ってきました。その動きを把握した他の学生ボランティアが机を運び、たどたどしい英語を見かねた他の学生が英語に堪能な学生や教員を連れてきます。まさにボランティアは、自発的な活動であり、つながりをつくっていくものです。

このようなボランティア精神を育む文化、チームづくりは一朝一夕でできるものではありません。東京成徳学園の教育実践は、「お節介」という側面を含むと思います。「見て見ぬふり」「聞こえないふり」を普段からしないのです。前述の学生ボランティア同士のとりに、教員が「お節介」にも入っていくことができるのは、普段から行なっているからこそ、自然にできるものです。このお節介のマインドがチームづくりの下地になっていて、ボランティア活動のモデルになっていたことは大きな発見でした。

国際大会を成功させた学生(高校生・大学生・大学院生)の活躍、このような文化を有する東京成徳学園の教育実践(教職員)をあらためて、誇りに思います。

応用心理学部

【臨床心理学】心理学実験で心理学の基礎固め

助教 上條 菜美子

臨床心理学の一年次の必修授業に「心理学実験I」があります。この授業では、心理学の基礎固めとして、古典的な心理学実験を実際に体験して学びます。心理学では、社会に存在する様々な問題から着想を得、自分なりに考えて仮説を立て、仮説を証明するための実験や調査を行います。そのため、発想力や論理性、データを収集・分析する実践力、効果的な図表をもとにレポートを仕上げる表現力などが、様々なスタディ・スキルが求められます。これらはいずれも社会で非常に役立つスキルです。また、この授業には、本学の大学院生6名がTA(学習補助)として授業に参加しています。学生と年齢の近い大学院生がサポートをしていることから、受講生は質問しやすく、わからないことをそのままにしない環境が整っています。4名の教員と6名のTAによって、121名の学生のアクティブ・ラーニングの質を高める取り組みができています。この手厚いバックアップ体制は臨床心理学科の特徴であり、学生から高い授業評価を受けています。



心理学基礎実験の授業風景

世界の最先端研究者による講演

准教授 石村 郁夫

10月21日(日)にヨーク大学名誉教授のレスリー・グリーンバーグ博士を新校舎6号館にお招きし、エモーショナル・フォークキャスト・セラピーの研修会を行いました。先生は、世界でも著名な心理療法家であり、アメリカとカナダの最も権威のある心理学大会からもその貢献により表彰されています。感情や関係性に関する最新の理論や、実際の面接ビデオを視聴するなど、説得力のある講演で、参加者の反応は極めて良好でした。次回もぜひ先生を呼んでほしいという声も多数聞かれた他、本学の会場設営についても、「とても開放的で心地よい秋の陽が差し込む会場で、学びやすい環境でした。」と好評をいただきました。

【福祉心理学科】  
ボランティア経験を活かす

学科長 中山 哲志

新しい年を迎えました。皆様明けましておめでとうございます。本学科の4年生の多くは、来月に迫った国家試験に向けて猛勉強をしています。3月には専門の学修成果を活かして福祉や医療、教育などの現場に巣立っていきます。

卒業する学生たちの4年間の学修の跡を辿っていくと、大学での座学とは異なり、ボランティアや現場での実習経験がとりわけ大きな影響を与えていることに気づかされます。様々な経験を通じて、そこで出会った人々からたくさんのお話を聞き、学生たちの人間的な成長が促されてきたことが伝わってきます。

ある学生は1年生でのボランティア経験に加えて、2年生で参加した千葉県下にある大学のボランティア活動を協議する集まりで、同世代の人々の考えや熱意溢れる行動力に刺激を受けました。そのことは、やがて「子ども食堂」など地域社会に関わる問題に目を向ける契機になりました。

さらに、現場実習経験を通じて、利用者とコミュニケーションをと

る際の応答の仕方によって、支援のあり方や質が大きく変わることになり、卒論ではそのことを確かめるための実験を行いました。その成果を学会でも発表することができました。その時の晴れがましい様子が写真に示されています。他の学生も同様にすぐれた学修成果をあげました。彼らの学修の質を高める契機となったものとして共通してあ

るのがボランティア活動や実習の体験でした。そのことを私たち教員は報告会での彼らの肉声を通して確かめることができました。まもなく卒業していく彼らは、これまでの学修経験を活かして、本学が、また本学科が大切にしている共生とコミュニケーションを忘れず、相手の立場に立った支援を心がけていくことでしょうか。

様々な課題が待ち受ける現代社会にあって、卒業生が困難に負けず、社会で活躍することを祈り、心よりエールを送ります。



【健康・スポーツ心理学科】  
学修支援の新たな試み SA

学科長 木幡 日出男

新しい試みである学修支援 (SA: Student Assistant) を開始して約9か月が過ぎました。主な目的は、1年生に対して上級生が援助的な関わりを機会を増やし細やかな学生支援を整えることで、修学上の課題の解決を促し、退学者・留学者の減少を目指しています。具体的には、教員の補助として毎回授業に出席し、授業の予習復習や課題について1年生へのアドバイスなどを行います。その他、レポートの書き方や履修の相談にも乗ります。また学科イベントの際には各SAが準備・指導の補助を通じて担当クラスの運営等を支援します。

SAの途中経過として、担当クラスの1年生とSAの各学生からの感想を次に紹介します。

・前期の小論文課題の時にどのようを書いていけばよいのか分からない時にアドバイスをいただいた。後期の「ギネスに挑戦」では、なかなか話が進まないなか、プラスの意見をもらい次に展開することができたので良かった。・雰囲気づくりや困っている人へのさりげないサポートがSAの

利点だと思っています。

・実際、(過去に)何をやったか、やっただうだったかなどが聞けて、より具体的な構想を持てたこと。さらにSAのおかげで話し合いの内容が深められた。ゼミ以外の学生生活についての話も伺えて参考になった。連絡事項の伝達や注意喚起をしていただきました。・いろいろなことを相談でき、たくさんアドバイスをしてくれる。

・自己アピールとして就活にも活かせ、自分自身の良い経験につながると思い引き受けた。学生との相談やサポートをすることで自己責任力が一番身についたと思う。今後はもっと欠席者のサポートに関われるようにしたい (SA)。

以上のような感想から、少なくとも1年生にとってSAが授業を含めた学生生活において、心強く頼りになる存在になっていくようです。また当初戸惑っていた授業でもSAの助言等により学びが深くなることで学修意欲が喚起されていくことが垣間見ることができました。なお、授業後には教員とSAとで振り返りの時間を設け、状況や課題等の確認を実施していることを付記します。SAの詳細は前44号をご参照下さい。

子ども学部

子ども学とは（リリー掲載②）  
社会の課題に向き合う子ども学

教授 善本真弓

「子ども学」という学問が成立したのはそう古いことではありません。そもそも「子ども」という定義は非常にあいまいで、国や法律、さらには個人によってもその捉え方はさまざまで、時代や文化の影響を受けて変化してきました。日本の法令の名称に「子ども」が登場するのは平成18年『就学前の子どもに関する教育、保育等の相互的な提供の推進に関する法律』です。ここでいう子どもは、小学校就学前の子ども、つまり乳幼児をさしています。この法令が制定された背景には、急速な少子化の進行、環境の変化、女性の社会進出、家庭の機能や地域社会の変化等による、保育や教育・子育てに対する多様なニーズが生じてきたことが挙げられます。そして、乳幼児期の保育や教育が、子どもの人格形成の基礎を培う重要なものであることが強調され、未来を担う子どもたちを心身ともに健やかに育成すること、子育て支援に力を入れることが重要課題となったのです。今こそ子どもについて学ぶこと子ども学は現代社会の課題に向き合う重要な学びであると言えます。

では実際に「子ども学」とは何を学ぶのか概観します。まずは子どもが心身共に健全に成長発達していくことを基本とした、子どもの身体・健康、心理・

保健・栄養、基本的な生活習慣、安全・生活遊びなどについて学びます。そして、子どもの人権、子どもを取り巻く環境、家庭・社会・文化等についての理解を深め、保育や教育に関する知識や技能を身に付けます。さらに今日的課題である子どもを育てる親や家庭への支援として、子育て支援についても専門的な視点から学び、子どもとその周辺分野について幅広い視野をもって総合的に学ぶのが「子ども学」です。

子ども学部では、1年生の桐友祭（学園祭）から子どもにも焦点をあてた活動を展開しています。本年度は「子どもランド」という子どもが遊べる場を作り、縁日、手づくり玩具のワークショップなどを学生が企画・運営し、乳幼児やそのご家族と関わる実体験を積みましました。2年次以降は保育・教育実習に出て、さらに具体的な学びを積み重ねます。

大学での学びは基礎、樹木にたとえらると根づきます。しっかりと大地に根をはり、多様な経験を積み重ね、枝葉を広げ花を咲かせ、大学を巣立って社会人として、様々な場で活躍し、「子ども学」の学びが実を結ぶことを願っています。

経営学部

A I時代の経営課題と人材

学部長 村山 純

人工知能（A I）の利用が様々な企業で広がりを見せています。例えば、ゲーム会社では、課金して楽しむユーザーの行動パターンを解析し、より面白いゲームにするにはどのような要素を加味すればいいか検討しています。小売店でも、顧客の購買行動をカメラで捉え、購入品目を識別して精算額を計算したり、最適な商品の陳列方法を導き出し、などの実例があります。A Iの利用により、従来、担当者の経験と勘にたよっていた業務が、客観的なデータに裏付けられ、正確で適切な判断が下せるようになりました。判断するのは勿論機械です。

このような時代になったため、企業は競ってA I技術者の確保に走っています。しかし、諸外国と比較して日本ではA I技術者の層が薄いようです。このため、外国人を雇用しなければならぬケースも多く、そのための対策がとられています。例えば、外国人にとつての最大の障壁が日本語ですので、社内公用語を英語とし、外国人が働きやすい環境を整える動きが年々増えています。

とはいえ、すべてを外国人に依存するわけにはいかず、日本人のA I技術者も必要です。A I技術者とは、どういう人でしょうか。単純化していうと、集積されたデータを統計解析し、プログラムを組む能力を持つ人です。したがって、経済界では、統計学や数学が重要だという認識が急速に広まっています。

最近、経団連の会長が、新卒採用について、「必要最低限の語学と異文化を理解する力は、理系・文系問わずに持つてもらわないと困る。少なくとも数学的な最低限の素養は文理共通だ。」と述べました（日経新聞10月31日）。こうした発言が経済界から出てくる背景には、以上のようなA I時代の経営課題が存在しているのです。

企業組織で働く一般の人間に求められる要素も変化しています。多くの仕事がA Iで代替されていくため、A Iでは解決できない分野の能力が求められているのです。非認知能力もしくは性格スキルと呼ばれるもので、好奇心、真面目さ、審美眼、積極性、精神的安定性、などからなっているそうです。

経営学部では、このような時代の要請を踏まえ、今後の教育プログラムを検討しています。

人文学部

【日本伝統文化学科】

マスコミを賑わす学科プロジェクト

助教 小菌 崇明

今年には日本伝統文化学科の二つのプロジェクトがマスコミを賑わせています。一つは空襲研究会（以下、「空襲研」）で、もう一つは震災史研究プロジェクト（以下、「震災研」）です。

空襲研は、有志学生5人で空襲の実態や次世代継承について調査・研究しており、最近では1945年2月19日の米本（八千代市）空襲について研究しています。これは千葉キャンパスから徒歩10分くらいの場所で11人が亡くなった空襲です。空襲研は地域の人たちにインタビューし、全員の亡くなった場所等明らかにしました。

成果を千葉市「きぼーる」で展示した際、各社の取材を受けました。6月7日『毎日新聞』には、学生が「通学している地域の空襲なので知りたいと思った」、「東京大空襲などと比較したら、小さな空襲かもしれないけれど、11人も亡くなったという事実は大きい。」と述べました。6月14日『東京新聞』、8月20日『朝日新聞』にも活動が掲載されました。

次に震災研です。震災研は千葉県

内にある関東大震災の記念碑・慰霊碑を網羅して、その建てられた意味を探ろうとするプロジェクトです。こちら

も有志学生5人で活動しています。50基以上の石碑を調査し、大学で企画展「石碑から見る関東大震災下の千葉県」を開催しました。

今年には関東大震災95周年であり、また、西日本豪雨や北海道地震等から震災研の活動が注目されました。9月2日『毎日新聞』では、「関東大震災忘れまい 千葉の大学生 石碑を二年かけ調査」という記事が編ま

れ、学生は「石碑一つ一つに後世に伝えたいという思いが込められている。」と述べています。また、8月31日NHKニュースウオッチ9の特集「災害の記憶 伝える石碑」にも取り上げられました。番組では、学生の活動

以外の話として、東日本大震災の被害があつた岩手県大槌町で木碑を建て、4年に一度過去を振り返るために建て替える話が登場しました。石碑だけでは記憶が継承されるには限らないのです。しかし、石碑がなければ私たちの研究は生まれませんでした。石碑をどのように活用するかが震災研の今後の活動でも問われることでしょう。

今後も、明るいニュースを届けたいと思います。

【国際言語文化学科】

国際交流の取組み

学科長 周建中

国際言語文化学科は、本学の「共生とコミュニケーション」の教育理念に基づいて、いろいろな方法を通じて、学生に多文化と国際政治経済などに関する幅広い知識と経験を積み、視野を広げてもらう教育活動を実施してきています。今年度も、前期の新生海外研修の他に、留学生の受け入れと海外への留学派遣も積極的に実施してきました。

受け入れた交換留学生は、前期に韓国4名、後期に韓国2名、台湾2名の年間合計8名でした。また、派遣した交換留学生は、前期に中国1名、韓国5名、オーストラリアへのインターシップ付き半期留学2名で、後期に韓国6名、インターシップ付き半期留学1名で、年間合計15名でした。

前期オーストラリアのディーキン大学へのインターシップ付き半期留学を体験してきた3年の丸茂怜奈さんは、老人ホームでのインターシップの他、積極的に友達との交流、また、Language exchange eventに参加して、英語は大変上達し豊富な経験もしたとのことでした。

こうした実績を踏まえ、来年度も

前期に韓国へ交換留学生3名及び半期留学生2名を派遣する予定です。

資格検定は、今年度もTOPIK（韓国語能力試験）の最上級である6級に3年田中歩佳さんが見事に合格しました。今はHSK（漢語水平考試）という中国教育部が認定する中国語能力試験の受験準備に励んでいます。

なお、例年のように、各学年の学生同士が交流を図るため、12月1日（土）の午前10時から午後3時半まで2・3・4年生による「言語文化演習・卒業研究・卒業論文の中間発表会及び2・3・4年生交流会」を行いました。昼食を挟んで、3年生は言語文化演習ゼミ論を、4年生は卒業研究と卒業論文で多彩な内容を発表し、教員及び学生も熱心な質問とコメントを展開して、活発な議論が交わされました。



4年生の卒論発表のようす

短期大学

幼児教育科ボランティア部

顧問 教授 福山多江子

短期大学には、ボランティア部という部があり、部としては伝統のある部です。私は、8年ほど前からこの部の顧問を受け継いで活動を行っています。

一般的なボランティアのイメージは、奉仕活動ということで、災害現場であったり、選挙活動であったりというイメージが強いのですが、短大のボランティア部は幼児教育を学修していることを活かし、乳幼児を楽しませるための手遊び、紙芝居や絵本の読み聞かせ、パネルシアターやエプロンシアターを演じる部です。

部の顧問を引き継いだ当初は、数人の学生での活動でしたが、年を経るにつれて毎に部員数も増加し、現在では男女合わせて28名で構成される部となりました。

1年間の活動を振り返ってみると、4月の新入部員の勧誘から始まり、5月には、北区の中央公園文化センターで行われる子ども広場のイベントへ参加し、手遊びやパネルシアターを演じ、子ども達を楽しませています。

本年度は、「カレライス」「ヒヨコさんのお散歩」「どうぞのいす」「北風と太陽」「金のおの・銀のおの」などのパネルシアターを作成し、子ども達や保護者の前で発表を行いました。子ども達のみならず保護者の方々にも好評で、毎年本学のパネルシアターの公演を楽しみにこの広場にいらしてくださる方もいらつしやることでした。



8月にはボランティア部の学生が施設実習を行った関係で、是非とも夏祭りに乳児にパネルシアターを演じて欲しいという依頼を受け、岩槻乳児院にてボランティアを行

いました。乳児が喜ぶような題材は何かを事前に吟味して作品を作成した結果、乳児院の職員の方々から「乳児の発達においてこの時期に経験させておきたいことを楽しみながら体験でき、感性を育むことができました。」とおっしゃっていただけでした。

10月には四大、短大、全学をあげての学園祭があり、そこにも参加し、乳幼児や保護者、地域の人々など、多岐にわたる方々が興味をもって学生の演じるパネルシアターに見入ってくださいました。中でも「お化けなんてないさ」は、パネルシアターに巧みな仕掛けがあり、お



風呂に入浴している子どもがその仕掛けによってお化けに変身するなど、手品のようなものであり、非常に喜ばれたことは印象的でした。

12月には川口乳児院のクリスマス会にも参加し、季節感を重視した「てぶくろ」やクリスマスの作品を演じ、子どもたちを夢の世界へと導き、楽しませることができました。

また、王子警察署の方と話し合いを行い、1月に北区の中央公園文化センターの子ども広場で、警察のイメージキャラクターであるピーポ君を使用して地震などの災害について演じることができるよう、パネルシアターを製作します。その中でものように子どもたち自身が身を守り、安全に過ごしていく意識ができるかを、理解しやすいように演じる計画になっています。

学生たちは、このような活動を通して乳幼児の笑顔に触れ、やりがいを感じ、それが意欲となって、「子どもたちを喜ばせるためにはどのような作品を製作し、演じればいいのか」と日々試行錯誤を繰り返し、児童文化財の作成や演じ方を研究しています。この活動が保育者になつてからも役立ち、未来の子どもたちのために少しでも貢献できたらと願っています。

中高一貫部

多様な社会的スキルの獲得に向けて

中高一貫部では、英語の4技能獲得に向けてニュージールランド学期留学を大きなターニングポイントとし、様々な学習を構築しています。特に朝学習やネイティブスピーカーによる習熟度別授業などは「話す」「聞く」の要素を早い段階から取り入れ、適性を見ながら実施し成果を上げてきました。

今年度中学3年生では英語の学習プログラムの延長上と位置付け、TGG（東京グローバルゲートウェイ）で校外学習を行いました。これまでの活動の中でも度々行ってきたグループワークがもととなる構成で、6〜7人に一人のネイティブ



と実践的なシチュエーションを想定し、対話形式で英語を活用していくものです。

生徒の表情やその後の感想から、学ぶことの根底にあるものは「苦痛」ではなく「充実」であると感じていました。



「苦痛」ではなく「充実」であると感じていました。生徒が、通用する実践的な英語の習得を実感し、社会的スキルの獲得を肌で感じた瞬間でした。

高等部

文化祭

9月22日・23日に文化祭が行われました。高校1年生の催し物はクラスでの展示や映像作品の発表を中心に来場者が見て楽しめるような工夫がされていました。インスタ映えを意図した作品もあり、写真を集めしように撮る方も多く見られました。また、戸隠校外学習での各クラ

スによる発表の展示も行われ、戸隠の自然や自分を深める学習のプログラムで感じたことを伝える場としても上手く活用できていました。

高校2年生では、修学旅行先が沖縄ということもあり、今年度は学年で「沖縄」というテーマを定めました。沖縄に関連する縁日や迷路、お化け屋敷といった体験型の作品が、小さな子ども連れに来場者には大変喜ばれていました。生徒にとっては沖縄のことを知る契機にもなり、修学旅行の事前学習にも繋がったのではないのでしょうか。

高校3年生は、生徒たちの強い要望もあり模擬店を運営しました。例年出店される「フライドポテト」や「ポップコーン」などに加え、「ローストポーク丼」や「フルーツポンチ」、「焼きベーコン」、さらには「メロンパンアイス」など、新たな「食」に挑戦するクラスもありました。

クラス単位以外でもスポーツイベントとして男子バスケットボール部が東京成徳大学深谷高校との交流試合を行いました。水泳部による機会になりました。水泳部によるアーティスティックスイミングはお客さんが会場に入りきらない程の盛況でした。かつてはシンクロと呼ばれ、十年ほど前にウォーターボー

イズという映画が流行しました。内容も当時の映画に勝るとも劣らない完成度で観衆を沸かせました。

また、有志団体が校内のお洒落で人気の高い生徒を集めたファッションショー、日頃の練習の成果を発揮してくれたダンス部によるダンスパフォーマンス、近年社会的にもブームとなり、知られるようになったアイドルを応援するパフォーマンスのオタ芸の他、バトン部・軽音楽部・吹奏楽部・書道部など舞台イベントも充実していました。

日曜日の夕方には、体育館で3年生対象の後夜祭が行われ、最後のイベントにふさわしく全員が楽しめる企画となりました。生徒と来場者だけでなく教員も楽しい文化祭となり、きずなを深めることができました。

学校表彰

優秀賞 書道部(展示とパフォーマンス)  
奨励賞 文芸部(展示とヒリアオバトル)  
特別賞 2A(爪楊枝アート)

学年表彰

各学年で1つ選出  
1年D組(劇「君の名は。」)  
2年S組(めんそーれ!VRトロッコ)  
3年J組(肉屋の3J ローストポーク丼)

※文化祭の写真はP18に掲載

深谷高等学校

オーストラリア修学旅行

10月25日(木)から10月27日(土)からの2班に分かれて、高校2年生が修学旅行でオーストラリアを訪れました。メインは2泊のファームステイです。

ここでは、2年I組西田莉乃さんの感想を紹介します。

「10月25日(木)から30日(火)まで、修学旅行でオーストラリアへ行ってきました。ファームステイではホストファミリーの方が明るく笑顔で話しかけてくれたので、すぐに緊張がほぐれました。英語がうまく聞き取れなかった時は、ゆっくりと聞き取ってジェスチャーも交えながら話



してくれました。子どもたちとは、現地のゲームを教わって一緒にやったり、みんなでダンスをしたり、とても楽しい時間を過ごすことができました。」

きました。温かく接してくれたホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。この修学旅行を通じて、日本とオーストラリアの違いも実感しました。一つは、オーストラリアでは水がとても貴重だということです。お風呂は本当に鳥の行水でした。二つ目は、三度の食事に加えて、モーニングティーという時間があることです。学校で、家から持ってきたお菓子を食べます。また、日本に比べて、下校時刻が早いということも驚きでした。この修学旅行を通して、国内だけではなく、海外にも目を向ける事の大切さを知ると同時に、もっと勉強して英語が話せるようになりたいと強く思いました。」



深谷中学高校一貫コース

シンガポール・マレーシア修学旅行

今年度の中学校3年生の修学旅行は、従来のマレーシア(クアラルンプール)に入学し、シンガポールから出国するマレーシア中心の修学旅行から、シンガポールに入学し、シンガポールから出国するシンガポール中心の修学旅行へとリニューアルされたことにより、生徒はシンガポールを満喫したようです。

ここでは、3年1組笠原大輝君の感想を紹介します。

「10月28日(日)から四泊五日の修学旅行ではシンガポールとマレーシアを訪れました。なかでも、シンガポールは現地の大学生と一緒に班別自主研修だったので、いろいろなものを見たり聞いたりすることができとても楽しかったです。印象深かったのは、料理の味付けや建築物でした。料理は極端に辛い甘いかのどちらかで、和食が恋しくなっていました。小さい一杯の辛いソースやドリアン



のどちらかで、和食が恋しくなっていました。小さい一杯の辛いソースやドリアン



匂いに悶絶してしまいそうでした。建築物は、日本と違って石でできているものが多いという印象を受けました。実際に買物もしましたが、日本の物価よりも高いと感じました。だいたい日本の12倍ほどだという事です。これは、シンガポールの国土が狭く、ものの生産ができないので、輸入に頼っているためだと聞きました。

班別自主研修以外でも、シンガポール博物館や植物園を見学したり、リバーボートに乗って、マライオンやマリナーベイサンズなどの観光名所を見学したり、ナイトサファリで普段見ることができない動物の様子を観察したりと本当に充実した修学旅行でした。」

幼稚園

秋の園外保育 落ち葉拾い

秋の園外保育として、落ち葉拾いをおこなうため、年長組は11月22日(木)に旧古河庭園、年中組は29日(木)に江北公園Ⅱ都市農業公園、年少組は27日(火)に飛鳥山公園へ行きました。

22日は朝方冷たい北風もありましたが、昼頃には風もおさまり、まずまずの天気となりました。旧古河庭園は、とても綺麗に整備されており、大きな池のまわりには、紅葉もすばらしく、子ども達は「きれいだね」と大喜びです。また、バラの花壇には、色とりどりのバラの花が咲いていて、一つ一つ名前を読み上げている子もいました。



年長組の旧古河庭園でのようす

27日と29日は、両日とも小春日和の暖かい秋の日に恵まれて、持参した袋一杯に、落ち葉やどんぐりを拾い集めていました。

桜の名所の飛鳥山公園には、たくさんのお花の枝から、ひらひらと赤や黄色に染まった葉が落ちてきて、子ども達は笑顔で駆け寄り、手にとっていました。

農業公園では、青々とした野菜畑のまわりを散策し、大根やねぎ、ブロッコリーが植わっている様子を、興味深そうに指差しながら見ていました。また広場には、黄色の銀杏の葉や赤い葉などたくさん落ちていて、大喜びで拾い集めていました。この園外保育で、子ども達には、木の葉の色がだんだん変わる様子を見たり、聞いたり、触れたり、嗅いだりしながら、自然の季節変化を知る貴重な体験をしてもらい、想像力や好奇心を育んでもらいました。



年中組の都市農業公園でのようす

第9回手作り絵本コンクール

東京成徳大学子ども学部



子ども学部賞 瀬川 晴加  
「あんよがじょうず」



子ども学部長賞 小林レナ・清水 美弥妃  
「いろとカタチ」



学長賞 高地 奏良  
「がんばるってなあに？」



優秀賞：絵本スタイル賞 小林 彪雅  
「がんばれティラノくん」



優秀賞：ほのぼの賞 安東 杏奈  
「おねいちゃんになつたら…」



優秀賞：ユーモア賞 田邊 七海  
「ほんとはぜんぶ」



秋を彩る各校のイベント

千葉キャンパス



千葉キャンパス学園祭時に開催された一般公開講座「今の韓国を知る三つのキーワード」(講師は大学の李 正勲助教)

東京キャンパス



古典の日になんで開催された女流義太夫演奏会を学科学生だけでなく一般にも公開(人文学部日本伝統文化学科 主催)



東京キャンパスで開催された女流義太夫演奏会のパンフレット

東京キャンパス



学園祭で経営学部ファッションコースが本格的なファッションショー「fashion show '18」

東京キャンパス



学園祭でダンスサークル fascino が躍動感あふれるさまざまなダンスを披露



東京キャンパスの学園祭パンフレットテーマ「変進」は自分が見たい未来へ向って自分を変えたいの表現

千葉キャンパス



学園祭で手話サークルが手話による歌を披露

千葉キャンパス



学園祭開会式で各サークル・団体が熱烈アピール



千葉キャンパスの学園祭ポスターテーマ「最・祭」は最期に事柄が個性といふことで彩られた学園祭

中高一貫部(東京)



文化祭で中学生英語スピーチコンテストの決勝が行われ、写真は3年生の部優勝者の見事な発表

中高一貫部(東京)



文化祭でダンス部のリズムカルで元気あふれるパフォーマンス



中高一貫部(東京)の文化祭パンフレットテーマは「平成最後! 半端ないって!!」

高等部(東京)



文化祭で特別賞を受賞した2年A組爪楊枝アート、14万本の大作

高等部(東京)



文化祭で優秀賞を受賞した書道部のみなさんとその豪快な作品



高等部(東京)の文化祭パンフレット  
テーマは「史上祭強」

高等部(東京)



大いに盛り上がった3年生が対象の文化祭後夜祭

高等部(東京)



文化祭で有志団体による「成徳ファッションショー」  
おしゃれな男子のパフォーマンスに会場から大声援



高等部(東京)の文化祭ポスター

深谷高校



3年生の進学コース保育系はポップコーンを販売し大盛況

深谷高校



文化祭の各企画団体が正門脇にのぼりを立ててPR



深谷校の文化祭パンフレット  
テーマは「平成最後の桐蔭祭〜歴史と伝統を紡いで〜」

幼稚園



作品展で年少組は、水族館をつくり、園児全員が作品を発表

深谷中学



文化祭で深谷中学は学習発表会を行い、全生徒が一人ずつ発表



深谷校の文化祭ポスター

卒業生 広瀬章人八段が羽生善治竜王を破り新竜王に

広瀬章人八段あきひと（東京成徳大学高等学校 平成17年3月卒業）は、第31期

竜王戦七番勝負で羽生善治竜王に4勝3敗で勝ち、初の竜王を獲得しました。

竜王戦は、将棋界八大タイトルの中でも最高のタイトルといわれ、さらに今回は羽生竜王が、勝てば前人未踏の通算タイトル100期獲得、負ければ27年ぶりの無冠となり、平成最後の決勝として、多くの注目を集めていました。

広瀬八段は、今回の竜王戦において、6組に分けて行われたランキング戦を1組で優勝、その上位者で戦われる決勝トーナメント戦でも、久保利明王将と深浦康市九段を下し、自身初となる竜王への挑戦権を獲得しました。

七番勝負の戦いは、1・2局が羽生竜王の連勝で始まった後、広瀬八段の粘り強い差し回しで最終局まで持ち越し、12月21日午後6時49分、広瀬八段が167手で激闘を制しました。カド番からの見事な逆転勝利でした。

広瀬新竜王は、今年度好調で、来月から始まる棋王戦五番勝負の挑戦権も佐藤天彦名人に勝ち獲得しており、渡辺明棋王に挑みます。

今後のご活躍に期待し応援していきます。

（広瀬章人新竜王の略歴）

昭和62年1月生まれ32歳。勝浦修九段門下。

平成17年、本校を卒業後、早稲田大学教育学部理学科数学専修に入学。同時に3段リーグ1位となり、四段昇段プロ入り。平成19年五段昇段。平成22年6月六段昇段、同年9月23歳にて王位を獲得し、自身初のタイトル獲得、将棋界初の大学生タイトルホルダーとなり、七段昇段。平成26年A級昇級・八段昇段。A級（原則10名）順位戦は、多くの順位戦の中で最高位の序列です。



初の竜王を獲得した広瀬八段 写真提供=読売新聞社

クラブ活動

東京成徳大学

男子バスケットボール部  
関東大学バスケットボールリーグ戦 3部…………… 第4位

東京成徳大学高等学校

女子バスケットボール部  
全国高等学校総合体育大会（インターハイ）…………… ベスト8

バトントワリング部  
全国高等学校バトントワリング選抜大会…………… 第7位  
バトントワリング関東大会高等学校の部 バトン編成…………… 金賞、千葉県知事賞  
バトントワリング全国大会高等学校の部 バトン編成…………… 金賞

東京成徳大学深谷高等学校

パワーリフティング部  
全日本高等学校パワーリフティング選手権大会…………… 男子 93kg級 6位 / 男子 83kg級 5位

サッカー部  
学校総合体育大会兼全国高校総体サッカー大会…………… 埼玉県予選 第3位  
全国高校サッカー選手権大会…………… 埼玉県予選 第3位  
高円宮杯 JFA U-18 サッカーリーグ 2018…………… 埼玉県 S1 リーグ 第3位

吹奏楽部  
埼玉県吹奏楽コンクール…………… Bの部 県大会 金賞  
西関東吹奏楽コンクール…………… 銅賞

東京成徳大学中学校

女子バスケットボール部  
東京都中学校総合体育大会バスケットボール大会…………… 第3位  
関東中学校バスケットボール大会…………… ベスト 16  
東京都中学校バスケットボール新人大会…………… 第3位

バトントワリング部  
全国中学校バトントワリング選抜大会…………… 第6位  
バトントワリング関東大会中学校の部 バトン編成…………… 金賞、千葉市教育長賞  
バトントワリング全国大会中学校の部 バトン編成…………… 銀賞

## これから受験できる入試日程

大学	出願最終日	選考日
一般入試 B 日程 (全学部)	1月31日	2月8日
一般入試 C 日程 (全学部)	2月19日	2月26日
一般入試 D 日程 (子ども学部を除く全学部)	2月28日	3月8日
一般入試 E 日程 (経営学部・応用心理学部健康・スポーツ心理学科)	3月12日	3月19日
大学入試センター試験利用入試 1期・2期・3期 (全学部、但し3期は子ども学部を除く)	1月28日 / 2月14日 / 2月28日	

短期大学 (幼児教育科)	出願最終日	選考日
一般入試 B 日程	1月31日	2月8日
一般入試 C 日程	2月19日	2月26日

高校	出願最終日	選考日
一般第1回	1月24日	2月10日
一般第2回	1月24日	2月14日

深谷高校	出願最終日	選考日
2月単願入試・2月一般入試	2月1日	2月9日
3月単願入試	3月8日	3月9日

中学校	出願最終日	選考日
第1回入試 (午前・午後)	1月30日	2月1日
第2回入試 (午前・午後)	2月1日	2月2日
第3回入試 (午前)	2月2日	2月3日
第4回入試 (午前)	2月3日	2月4日



※詳細は各校ホームページでご確認ください。

学校法人 東京成徳学園	<a href="http://www.tokyoseitoku.ac.jp">http://www.tokyoseitoku.ac.jp</a>	
東京成徳大学大学院	<a href="http://www.tsu.ac.jp/gra">http://www.tsu.ac.jp/gra</a>	電話 03-5948-5161
心理・教育相談センター	<a href="http://www.tsu.ac.jp/center/tabid/210/Default.aspx">http://www.tsu.ac.jp/center/tabid/210/Default.aspx</a>	電話 03-5948-5162
東京成徳大学	<a href="http://www.tsu.ac.jp">http://www.tsu.ac.jp</a>	
東京キャンパス (十条)		電話 03-3908-4530
千葉キャンパス (八千代)		電話 047-488-7111
東京成徳短期大学	<a href="http://www.tsu.ac.jp">http://www.tsu.ac.jp</a>	電話 03-3908-4530
東京成徳大学中学校・高等学校		
中高一貫部	<a href="http://www.tokyoseitoku.jp/js">http://www.tokyoseitoku.jp/js</a>	電話 03-3911-2786
高等部	<a href="http://www.tokyoseitoku.jp/hs">http://www.tokyoseitoku.jp/hs</a>	電話 03-3911-5196
東京成徳大学深谷中学・高等学校		
中学校	<a href="http://www.tsfj.jp">http://www.tsfj.jp</a>	電話 048-573-1784
高等学校	<a href="http://www.tsfh.jp">http://www.tsfh.jp</a>	電話 048-571-1303
東京成徳短期大学附属幼稚園	<a href="http://www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind">http://www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind</a>	電話 03-3911-6337
東京成徳スイミングスクール		電話 03-3914-2383

学校法人 東京成徳学園 〒114-8526 東京都北区豊島8-26-9 TEL 03-3911-2411 FAX 03-3911-6500  
 法人本部企画調査室 東京成徳広報 第45号 2019年1月発行